

# ツギ to つぐ

「ツギtoつぐ」では、人・企業の次世代へのチャレンジや、先人の思いを次世代へつないでいくことをテーマに、地域の活力について考えます。  
2回目の今回は、きょう9月1日に創立80周年を迎えた、アトリオン製菓株式会社(須坂市)。同社の山下奉文社長と、今年入社したばかりの小林咲月さんが、創業間もないころの同社(当時は明治産業株式会社)で働いていた山崎好子さんを訪ね、当時の様子を聞きながら、会社の未来について考えました。(聞き手は信州大学経済学部の佐久間梓さん)

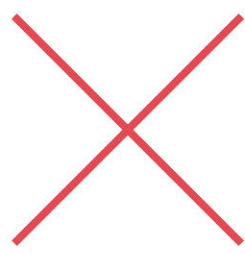
装をしたのですが、仕事の流れがそれほど変わっていないみたいでびっくりです。流れが速くて、すごく頑張らないと追いつかない...  
山崎 私は手先の仕事が好きでね。職業安定所でこの会社を紹介された時もすごくうれしかったんです。確かにいろんなキャラメルが流れてきて、手を止める暇はなかったけれど、仕事にはすぐに慣れて、上司に注意を受けるようなことはなかったですね。  
小林 え？ すごくです。本当に大変なんです。就業時間はどれくらいだったんですか？  
山崎 朝8時から夕方5時まででした。  
山下・小林 今とまったく一緒ですね！



# きょう創立80周年 地域の中で、人が つながっていく

ツギ to つぐ スペシャルインタビュー

## アトリオン製菓株式会社



ツギ to つぐ

戦後の復興期キャラメル製造に  
打ち込んだころ

佐久間 山崎さんはいつごろ、この会社で働いていたんですか？  
山崎 私が20歳くらいのころだから、1953(昭和28)年くらいですかね。2年ほど働いていました。  
山下 当社は1945(昭和20)年の創立ですから、かなり創業期に近い時期ですね。創業時の社名「新興産業株式会社」から「明治産業株式会社」に変わったところかな。当時はどんな製品を作っていましたか？  
山崎 ビスケットやキャラメルですね。私はキャラメルの箱詰めを担当していました。製造部門から運ばれたキャラメルが、一つ一つ紙で包まれていて、機械で流れてくるそれらを、私は箱に詰めていった。その後で箱にシールを貼っていく人がいて、製品を計量する人がいて...という感じでした。一箱で20個入り。20円で販売されていた製品です。パッケージもよく覚えていますよ。  
小林 私は新入社員研修で製造部門の作業もしました。最近、「ヨーグレットミニ」という製品の包



ひたすら楽しかった仕事  
仲間たちも

佐久間 お仕事は楽しかったのですか？  
山崎 それはもう、楽しくて仕方ありませんでした。仕事では、同僚と和気あいあい、という余裕はなく、とにかく集中。それでも毎日楽しかったのは、得意な仕事だったからです。だから、事情があって会社を離れることになった時はとても残念でしたよ。  
山下 楽しいというのはいいですね。僕は今、働いている方が少しでも楽しいとか、ここで働きたいと思ってもらうにはうしろたいいか、いつも考えています。例えば最近、バスケットボールの信州ブレイブウォリアーズという面白い取り組みをさせてもらっているのも、そのことでお客さまも、働く人も喜んでもらえるといいな、という思いがあるからです。



山崎 運動会みたいなものもあったかな。それから、当時はダンスホールがはやっていて、私も小布施の家に行った帰って夕飯を済ませてから、また須坂の街まで出直して行きましてね。そこには同じ会社の人たちもたくさんいましたよ。  
小林 楽しそう。中の様子を見てみたい。

働く人の個性が、新しい  
ものを生み出していく

佐久間 山崎さんが働いていた時代と今とは、だいぶ変わっているところもあるけれど、意外と変わらない部分もあるようですね。  
山下 やっているこの本質は同じですね。今では「ヨーグレット」をはじめとして20〜30種類の製品を作っていますが、多品種を一つの機械で作ることはできません。さまざまな製品を作れるようにするには「人の手」がどうしても必要で、その「人の手」の、ちょっとしたコツでできる製品というのがけこうあるんです。

佐久間 そのコツは、偶然生まれたものでしょうか？

山下 あらゆる偶然のなかで生まれたものであり、ある種の奇跡のように培われたものだと思います。今ここにいる山崎さんから小林さんまで、この80年の間に当社では数えきれないくらい多くの人たちが働き、それぞれの個性が新しいものやノウハウを生み出しました。例えば、山崎さんの器用な手さばきは本人には当たり前のことでも、周囲の方にとっては大きな学びだったはずで、それが広がり、つながっていったこともまた、当社の大変な資産と言えます。そんな一つ一つの小さなことが積み重なって、今日のアトリオン製菓の姿があります。

小林 私は、母がこの会社で働いていたのもきっかけになって、ここに就職したんです。山崎さんにお会いして、人がつながって会社が続いている、ということが改めて分かります。

山崎 私にとっては、楽しかった思い出が詰まった会社。これからも頑張っていきたいと思います。



【聞き手】

佐久間 梓さん

さくま・あずさ  
2004(平成16)年生まれ。岐阜県出身。  
信州大経済学部3年生。長野県の学生  
のための情報サイトCOCOROMY(ココ  
ロミー)でライターを務める。将来は頑張  
る人を支える仕事をしたいと考えている。



## 小林 咲月さん

こばやし・さつき  
2006年(平成18)年生まれ。須坂市出身。  
須坂創成高卒。今春、新卒でアトリオン  
製菓に入社。さまざまな部署で業務を  
経験しながら、会社のことを学んでいる最  
中。趣味は小説を読むこと。

## 山崎 好子さん

やまざき・よしこ  
1932(昭和7)年生まれ。小布施町出身。  
幼いころに両親を亡くし、祖母に育てられ  
た。親戚の家で農業の手伝いを経て、明  
治産業株式会社(当時)で約2年間働く。  
アトリオン製菓に勤務するおひいり。

## 山下 奉文さん

やました・ともたけ  
1984(昭和59)年生まれ。神奈川県出身。  
慶応義塾大卒。丸紅株式会社を経て  
2023年から現職。「笑顔を生み出すお  
菓子の力」を信じている。週末の楽しみは  
少年野球の手伝い。

【アトリオン製菓株式会社】

明治製菓株式会社(現株式会社明治)の子会社として1945(昭和20)年9月1日に設立。戦時中、工場の疎開先を探していた明治製菓が、須坂の駅前にあった乾燥野菜の工場に着目。交渉中に終戦を迎えたが、復興してくる社員を受け入れるため新会社として設立された。当時の社名は「新興産業株式会社」で、53(昭和28)年に「明治産業株式会社」に改称。明治製菓の製品だけでなく自社開発の製品や相手先ブランドによる生産(OEM)も手掛けて業績を伸ばし、87(昭和62)年に現在の須坂市高梨に移転した。2023年に大手商社丸紅株式会社の子会社となり、同6月に「アトリオン製菓株式会社」に社名変更。社名は「大局観のある時代感覚」を星言葉にもつ南の星「アトリア」にちなむ。社員数約250名。主力の製品は「ヨーグレット」「ハイレモン」など。

